

May 17, 2019

【前日の為替概況】ドル、良調な米経済指標で全面高、対円 109.97 円、対ユーロ 1.1166 ドル

16日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは下落。終値は1.1174ドルと前営業日NY終値(1.1201ドル)と比べて0.0027ドル程度のユーロ安水準だった。欧州市場では1.1224ドルまで買われる場面もあったが、前日の高値1.1225ドルの上抜けに失敗すると失速した。ユーロ圏の景気減速やイタリア財政問題などの懸念でユーロ売りが出やすかったうえ、5月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数など米経済指標が軒並み良好な結果だったことからユーロ売り・ドル買いが優勢となり1.1166ドルまで下落した。

サルビーニ伊副首相は、「イタリアもトランプ大統領のように規律を無視する行動が必要」などと発言。前日には「EUの財政規律は欧州を飢餓状態に陥れている」とし、改正の必要があると訴えている。

ドル円は上昇。終値は109.85円と前営業日NY終値(109.60円)と比べて25銭程度のドル高水準だった。良好な米経済指標が相次ぐと、米長期金利の上昇とともにドル買いが先行。ダウ平均が300ドル超上昇したことも相場の支援材料となり、109.97円まで値を上げた。

ユーロ円はほぼ横ばい。終値は122.75円と前営業日NY終値(122.76円)と比べて1銭程度のユーロ安水準だった。ドル円とユーロドルの値動きの影響を同時に受けたため相場は方向感が出なかった。

メキシコペソはさえない。WTI原油先物価格は上昇したものの、メキシコの通貨ペソには売りが出て頭の重い展開となった。ドルペソは19.1343ペソ、ペソ円は5.74円付近までペソ安に振れた。

メキシコ中銀はこの日、政策金利を現行の8.25%に据え置くことを決めたと発表。据え置きは3会合連続となる。声明では「経済成長が急速に鈍化している一方、物価の上昇は中銀の目標を超える水準になってきたため金利を据え置いた」との見解が示された。

【本日の東京為替見通し】ドル円、日経平均株価を睨みながら 110 円台回復なるかに要注目か

本日の東京市場のドル円は、ニューヨーク市場での堅調地合いや日経平均株価の反発が予想されることで続伸が予想されるものの、米中通商戦争、米為替政策報告書、朝鮮半島や中東の地政学リスクなどへの警戒感から上値は限定的か。

ドル円のテクニカル分析では、ダブル・トップ(112.14円・112.40円)を形成後、200日移動平均線を下抜けて「三役逆転」となり、窓(111.07円・110.96円)を空けて、ネック・ライン109.71円を下回ったことで、下値目標値107.02円を目指す下落トレンドを形成している。ネック・ラインを上回って引けているものの、110円台にも重要な抵抗帯が控えている。

- ・110.32円(日足一目均衡表・雲の下限)
- ・110.96-111.07円(3-6日の窓)

また、日経平均株価もダブル・トップ形成、200日移動平均線を下抜けて窓を空けて下放れた後に、昨日「三役逆転」の売りの時代に入っており、本日は、雲の下限21087.85円の攻防に要注目となる。

今週の景気判断の「悪化」(=景気後退の可能性)に続き、来週月曜日に発表される日本の1-3月期実質国内総生産(GDP)・速報値は、前期比年率▲0.2%のマイナス成長が予想されており、5月月例経済報告で景気後退が確認され、6月調査の日銀短観が悪化傾向を継続していた場合、10月の消費増税(8%⇒10%)の先送り観測が高まることになる。

ドル買い材料としては、日米通商交渉が7月の参議院選挙後に先送りされていること、自動車関税の発動が最長6カ月延期される可能性(米政府高官筋)などが挙げられる。

ドル売り材料としては、米中通商戦争への警戒感、中国による米国債売却の可能性、米財務省の為替報告書での円安けん制、などが挙げられる。為替報告書に関しては、昨年4月のような「円は過去20年の平均よりも約25%安い」「2013年以降の円安は日銀の量的金融緩和が要因」などの円安けん制に要警戒となる。

朝鮮半島や中東の地政学リスクへの警戒感も、リスク回避の円買い要因となる。北朝鮮は2017年以来となる短距離ミサイルの発射実験を再開しており、イランによる中東の米軍基地への攻撃の可能性を受けて、トランプ米政権が空母打撃群をホルムズ海峡に派遣し、在イラク公館職員に退避命令を出したことで、緊迫感が高まりつつある。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○13:30 ◇ 3月第三次産業活動指数（予想：前月比 0.1%）

<海外>

○18:00 ◇ 3月ユーロ圏建設支出

○18:00 ☆ 4月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）改定値（予想：前年比 1.7%）

○18:00 ☆ 4月ユーロ圏 HICP コア改定値（予想：前年比 1.3%）

○23:00 ◎ 4月米景気先行指標総合指数（予想：前月比 0.2%）

○23:00 ◎ 5月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：97.2）

○18日 02:40 ◎ クラリダ米連邦準備理事会（FRB）副議長、講演

○17-20日 ☆ 1-3月期ロシア GDP 速報値（予想：前年比 1.2%）

○欧州連合（EU）財務相理事会

○ノルウェー（憲法記念日）、休場

○18日 豪総選挙

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

16日 07:22 米商務省

「華為技術(ファーウェイ)の製品購入でライセンスを義務付けへ」

「華為技術(ファーウェイ)と関連会社 70 社を貿易ブラックリスト入りへ」

16日 08:42 イラン外務相

「米国の核合意離脱にもかかわらず、我々は最大限に自制している」

16日 10:02 華為技術(ファーウェイ)

「米政府との協議を望む」

「不当な規制は権利を侵害する」

「不当な規制は深刻な法的問題を生じさせる」

16日 11:41 若田部日銀副総裁

「デフレ脱却局面で金利がスティーブ化することを期待する」

「長短金利をフラット化することが金融緩和の目的ではない」

16日 16:36 中国商務省

「世界景気の後退回避のため、米国に早期の中国製品への関税撤廃を要求」

「米国の関税引き上げは、米中通商協議を困難にする」

「通商を巡る緊張を米国が高めている事態は遺憾」

「現時点で米通商代表団が訪中を計画との情報ない」

「中国はあらゆる圧力を恐れず、挑戦への対応に自信」

「米国が圧力を継続するなら、必要な対抗措置を取らなければならない」

「米国の制裁や大きな圧力による戦略へ強く対抗」

「中国は重要な原則において絶対譲歩せず」

「(問題解決のためトランプ米大統領と習主席が会う必要)ない」

「通商摩擦が中国経済へ与える影響、完全に制御できる」

「消費者物価を注視、必要なら対策を講じる」

「米国との通商摩擦の低減ため一層の措置を講じる用意」

「通商戦争に勝者なし」

16日 19:20 スラック英首相報道官

「ブレグジットに関して、これから数日以内に労働党ともっと話し合いを行う」

16日 23:45 サルビーニ伊副首相

「伊も規律無視のトランプ大統領のような行動が必要」

17日 00:42 ポロズ・カナダ銀行(中央銀行、BOC)総裁

「依然として今年後半に成長が回復すると予想」

「家計の借り入れは再び回復する可能性が高い」

「米中貿易戦争の拡大は依然として主要なリスク」

17日 02:50 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁

「FRB はインフレ 2%超えを容認すべき」

「インフレ期待は低い」

17日 02:53 ブレイナード米連邦準備理事会(FRB)理事

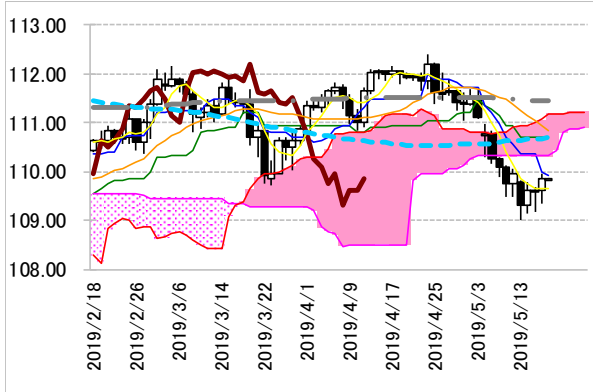
「2%の物価目標の未達は信任問題になる」

17日 03:07 クーレ欧州中央銀行(ECB)理事

「現在の低インフレは不可解」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=一目・雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。ダブルトップ(112.14円・112.40円)形成後の窓(111.07円・110.96円)空けて、下値目標値107.02円を目指す下落トレンドを形成中。

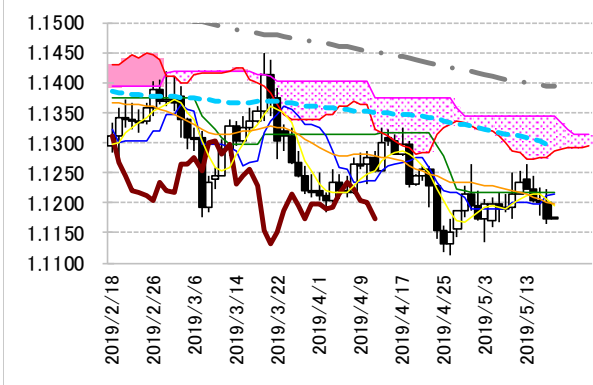
本日は、ネックライン109.71円を上回っているものの、転換線109.94円を下回っていることで、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 110.32(日足一目均衡表・雲の下限)

前日終値 109.85

サポート1 109.02(5/13 安値)

サポート2 108.50(1/31 安値)



<ユーロドル=一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

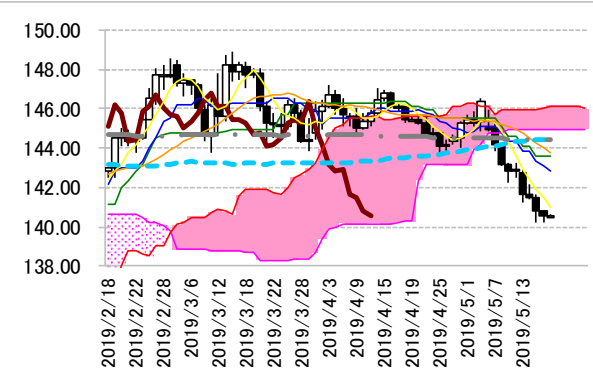
陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。高値圏でのカプセ線、4手連続陰線で下落トレンドの可能性が高まりつつある。

本日は、一目・雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 1.1215(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 1.1174

サポート1 1.1112(4/26 安値)



<ポンド円=5日移動平均線を抵抗に戻り売りスタンス>

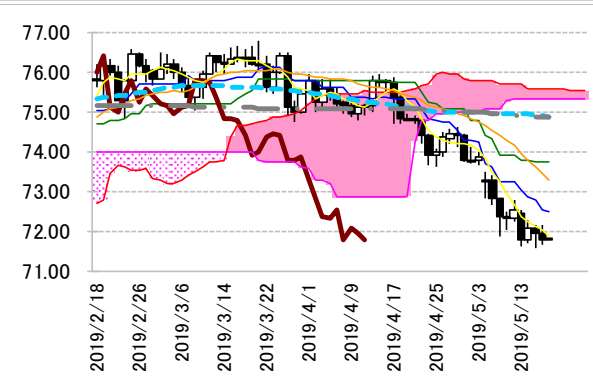
陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。4手連続陰線で下落トレンドを形成中。

本日は、5日移動平均線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 141.01(5日移動平均線)

前日終値 140.58

サポート1 139.52(1/17 安値)



<NZドル円=一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陰線で下落トレンドを形成中

本日は、一目・転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 72.48(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 71.79

サポート1 70.92(5/8-10の上昇幅の下方倍返し)

